

関 係 各 位

愛知県農業総合試験場長
(公 印 省 略)

病害虫発生予察情報について (送付)

このことについて、下記のとおり発表しましたので、参考にしてください。

記

令和4年度病害虫発生予報第9号 (12月)

担 当 環境基盤研究部病害虫防除室
電 話 0561-62-0085
内 線 471
ファックス 0561-63-7820

令和4年度病害虫発生予報第9号 (12月)

令和4年12月2日
愛 知 県

野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ハクサイ キャベツ	コナガ	平年並	県全域	11月下旬の発生量はハクサイほ場で平年並、キャベツほ場でやや少ない フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	ー～± ±
トマト (施設)	葉かび病	平年並	県全域	11月下旬の発生量は平年並 12月の日照時間はほぼ平年並	± ±
	黄化葉巻病	多い	県全域	11月下旬の発生量はやや多い 11月下旬のコナジラミ類の発生量は多い	＋ ＋
	コナジラミ類	多い	県全域	11月下旬の発生量は多い	＋

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ナス (施設)	うどんこ病	平年並	県全域	11月下旬の発生量は平年並	±
	ミナミキイロアザミウマ	平年並	県全域	11月下旬の発生量は平年並	±
キュウリ (施設)	べと病	平年並	県全域	11月下旬の発生量は平年並 12月の日照時間はほぼ平年並	± ±
	ミナミキイロアザミウマ	平年並	県全域	11月下旬の発生量は平年並	±
イチゴ (施設)	灰色かび病	平年並	県全域	11月下旬の発生量は平年並 12月の日照時間はほぼ平年並	± ±
	うどんこ病	平年並	県全域	11月下旬の発生量は平年並	±
	ハダニ類	平年並	県全域	11月下旬の発生量は平年並	±

・防除対策

[トマト・黄化葉巻病、コナジラミ類]

11月1日発表の「令和4年度病害虫発生予察注意報第6号」を参照してください。

・留意事項

ハクサイべと病は、病斑上にできる分生孢子によって伝染します。発病葉等を見つけたら速やかにほ場外に持ち出し、適切に処分しましょう。

キャベツ菌核病の発病株は伝染源となるので、菌核を形成しないうちに抜き取り、ほ場外に深く埋めるなど適切に処分しましょう。

施設野菜では、この時期、保温のため施設を閉め切ると湿度が高くなり、灰色かび病が発生しやすい条件となります。初発を確認したら速やかに防除しましょう。特に、暖房機の設定温度を低くしている場合は、暖房機の稼働時間が短くなり、施設内が多湿になりやすいので注意しましょう。また、発病果や発病葉は速やかに取り除いて施設外に出し、適切に処分しましょう。

トマトすすかび病の発生が多いほ場では、湿度管理を適切に行うとともに、防除を徹底しましょう。

ナスでは、ミナミキイロアザミウマの発生を確認したら、密度の低いうちに防除しましょう。訪花昆虫や天敵を導入しているほ場では、それらに影響の少ない農薬を選定しましょう。

キュウリでは、ミナミキイロアザミウマがキュウリ黄化えそ病の病原ウイルス（MYSV）を媒介するので、防除を徹底しましょう。発病株は伝染源になるので、見つけ次第抜き取って適切に処分しましょう。

イチゴでは、ハダニ類の発生が多いほ場があります。多発すると防除が難しくなるので、ハダニ類を見つけた場合は速やかに系統の異なる薬剤でローテーション防除しましょう。訪花昆虫や天敵を導入している、あるいは今後導入を予定しているほ場では、それらへの影響も考えて農薬を選定しましょう。

参考

東海地方 1か月予報（名古屋地方気象台 12月1日発表）

〈予想される向こう1か月の天候〉

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率50%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い：20% 平年並：30% 高い：50%

〔降水量〕 少ない：30% 平年並：40% 多い：30%

〔日照時間〕 少ない：40% 平年並：30% 多い：30%

「農薬使用者のみなさんへ」

- 飛散防止にこれまで以上に留意し、農薬の適正使用に努めましょう。
- 農薬使用前にはラベルの内容を確認しましょう。
- 農薬散布後は、防除器具のタンクやホースも、洗いもれがないようにしましょう。
- 農薬は、安全な場所に鍵をかけて保管しましょう。
- 農薬の使用状況を帳簿に記載しましょう。
- 農薬の空容器は、ほ場などに放置せずに適切に処理しましょう。